

普通

十勝地区 帯広市立帯広第四中学校 3年 吉田 千玲

皆さんは「普通」ということについて考えたことはありますか。私達は、普段、自分と違う行動をとる人のことを「普通じゃない」と言ってしまうことがあります。でも、「普通」とは何なのでしょう。「普通」の基準は誰が決めたのでしょうか。そもそも「普通」なんてないのでは……と思います。今日は私なりの「普通」について考えてみます。

私には2つ下の妹がいます。母によると、あやすと微笑む目の可愛い赤ちゃんだったそうです。外出すると、「かわいいわね」とよく声をかけられていました。しかし、妹は皆さんのいう「普通」ではありませんでした。妹は皆さんと同じようには話せません。はっきりと発音するのが難しいのです。漢字や計算を覚えるのにも私達の何倍も時間がかかります。運動も苦手です。

でも、できないことには理由があります。うまく話せないのは、言葉を音にして組み立てるのが苦手だからです。本当は多くの言葉を知っています。名詞や動詞、形容詞はもちろん、「暴力反対」などの抽象的な言葉も知っています。ただ、相手のスピードに会話のタイミングを合わせられないのです。だから、言葉を理解していないと思われがちです。伝えたい気持ちをたくさんもっているのに、言いたいことがうまく伝わらないのは本当に辛いことだと思います。こちら側が少し待ってあげればうまくいくこともあります。

運動が苦手なのは、体幹が弱いのと、協調運動がうまくできないからです。縄跳びで縄を回しながらジャンプするなど、二つの動作を同時に別々の器官で行うのが協調運動です。これは、日常生活でいつも無意識に行われています。言葉の発音も、舌と口の協調運動によってはっきりと話すことができるのです。

逆にすばらしいところもあります。家の中でスマホや鍵がなくなると、ほぼ百パーセント妹が見つけてくれます。神経衰弱も得意です。こんなにも記憶力があるのに学習に時間がかかるのは不思議です。きっと物の見方や記憶の仕方が人とは違うのだと思います。

今回、妹のことを友達の前で話すかどうか迷いました。受け入れてくれる人もいれば、そうでない人もいると思ったからです。でも、私は12年間一緒に過ごしてきたからこそ、できないことをこちら側が理解して、接し方を変えれば「普通」だと思えることを、みんなに知ってほしく話すことにしました。

この春、妹は私と同じ中学校の特別支援学級に入りました。私のクラスの授業を覗いていたり、全校集会で静まり返っている中「ちあきいいい」と走って来たりします。私に全校生徒の視線が集まって、恥ずかしいと感じることも多々あります。そんな時、クラスみんなが「お前、妹に優しくしてやれよ〜」と、私に声をかけてくれます。みんなが普通に接してくれるので、私はとても救われています。だから、みんなに話して良かったなと思います。

少し接し方にコツはいるけれども私にとっては普通の妹です。皆さんが「普通じゃない」と思う妹を私が「普通だ」と思えるように、感じ方は人それぞれなのです。自分と違う人のことを「普通じゃない」と思うのか、「普通だ」と思うのかは、相手ではなく自分自身の問題だと思います。

自分と全く同じ人は、この世には一人もいません。1人1人違うのが当たり前で、互いに認め合うことが大切です。まずは、相手の内面を知ろうと努力してみてください。そして、想像してください。きっとその人は皆さんと同じ感情を持っていることがわかります。自分と「違う」イコール「普通じゃない」と決めつけなければ、今までとは違う見え方になるはず。見方が変われば、感じ方も変わります。